

# ストリートダンサーの人生

杉田千明

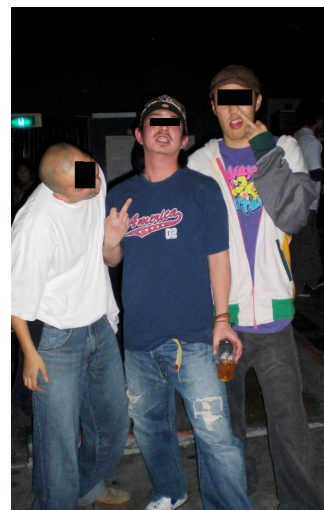
## 1. はじめに

深夜 12 時を回る頃、路上である若者集団を目にしたことはないだろうか。路上で CD デッキから大きな音で流れるブラック・ミュージック<sup>1</sup>に体を揺らし、ときには路上で飛んだり跳ねたり、逆立ちをしたり、転がりまわるようなアクロバットな動作をするものもいる。彼らは、ストリートダンサーと呼ばれ、夜な夜な路上に集まっては、通行人がいようがいまいが音楽を流し、場所を占拠して踊る（写真 1、2）。

ストリートダンサーたちは、夜間にダンス場所に集まり、日中は、働いたり、学校にいたり別々の行動をしている。中には、ストリートダンスの時間をとることが可能な職業を選択しているものもいる。また、もともと就いていた仕事を辞め、インストラクターとしてダンススタジオでストリートダンスを教える仕事をしている者もいる。彼らのライフスタイルには、それほどダンスが染み付いている。ダンスをするためにダンスインストラクターという職業を選ぶことや、ダンスと両立できる職業を選ぶということは、何を意味するのであろうか。本研究では、青森県弘前市のストリートダンサーに接近し、サブカルチャーであるストリートダンス文化が、彼らにどのような影響を与えているのかを明らかにした。ここでは、社会に対するストリートダンス文化（サブカルチャー）の影響力についての論考の一部を紹介したい。



【写真 1 ストリートダンサーたち】



【写真 2 ストリートダンサーたち】

## 2. 研究対象

本研究では、弘前市でストリートダンスをする 18 歳から 33 歳の男女 14 人の生活史を分

<sup>1</sup> 黒人の音楽のこと。ヒップホップ・ミュージックなど

析した。対象者たちは今後ストリートダンスを続けていくために、「仕事とダンスを両立」しようとしている者と「ダンスを仕事」としている者に分類されるようである。

表はインタビューを行った対象者の職業もしくは内定先・考えている職業である。

【表1 対象者のパーソナルデータ】

	対象者	年齢	性別	最終学歴	職業	内定先・希望職
	F	19	男	大学生1年	—	なし
	J	20	男	大学2年	—	なし
	C	19	男		—	なし
	H	20	女		—	フライトアテンダント
仕事とダンス 両立型	N	21	女	大学3年	—	公務員(勉強中)
	L	22	男	大学4年	—	公務員(内定先)
	G	24	女	大学卒	銀行員	—
	M	25	女		生命保険会社 兼インストラクタ	—
ダンスが 仕事型	K	25	男	大学院卒	スタジオ経営 兼インストラクタ	—
	B	28	男	高校卒	インストラクタ	—
	E	29	男		インストラクタ 2ヶ所	—
	D	24	女		インストラクタ 兼アルバイト	—
	A	33	男		中学校卒	インストラクタ 7ヶ所
	I	24	男	—	インストラクタ兼 短期アルバイト	—

### 3. ダンスによって出来上がった道

#### (1) サイドワークとしてのストリートダンス～「仕事とダンス両立型」

はじめに「仕事とダンス両立型」のMさんの事例を紹介する。

【Mさん 女性 25歳】

Mさんは、大学4年生の進路選択の際ダンスと両立可能な職場を自ら選ぶ。現在は青森市の生命保険会社で働きながら弘前市のスタジオでインストラクターを務める。Mさんは、仕事とダンスの兼ねあいについて次のように語っている。

M「うーん…、仕事は頑張っていない、意識の中ではダンスが一番。自分にはダンスだーって思うし、

でもたぶんどんなにやりがいのある仕事に就いたとしても、ダンスにそこまではまっっちゃってるとは本当だからこれ以上やりがいを感じることがないんじゃないかなーってなんか思っちゃう。」

Mさんはダンスと両立できる就職先を選んでいる。現在、ダンスと仕事を両立した生活を送っているが、「意識の中でダンスが一番」と語っているように、生活の中で仕事よりもダンスを重視しているということがわかる。ダンス中心の人生を選択しているのである。

## (2) 仕事としてのストリートダンス～「ダンスが仕事型」～

次に、「ダンスが仕事型」の事例を紹介する。ダンスインストラクターは、契約雇用であることが多く、歩合制で給料を貰う場合もある。彼らの月収の最頻値は5万であった。さらに、一年契約であることが多いため、次年度に保障がないという場合もある。ダンスインストラクターは不安定な職業だといえる。下の表は彼らの進路のプロセスである。

【表2 進路のプロセス】

対象者	進路	
	中学校卒業後	18歳以降
B	公立普通科下位高校	電気会社→碎石屋→通販会社→失業者養成学校→留学→フリーター→ダンスインストラクター
E	公立普通科下位高校	ダンス専門学校→フリーター→工場→フリーター→ダンスインストラクター
D	私立普通科女子高	フリーター→ダンスインストラクター
A	公立普通科下位高校 中退→フリーター	運送業→フリーター→ダンスインストラクター
I	プロサッカー選手養成 学校→フリーター	フリーター→ダンスインストラクター

「ダンスが仕事型」の対象者たちは、フリーターを経験し、その後、ダンスインストラクターとなっている。彼らは、学校体験、職場、ストリートダンス、家庭環境がどのように絡み合っフリーターとなり、ストリートダンスインストラクターの道へ進んでいったのだろうか。以下では、Bさんの事例を紹介しよう。

### 【Bさん 男性 28歳】

高校を卒業後、「学校の紹介で」弘前市の電気工業に就職する。一年目は、弘前市で働くも、2年目に転勤で福島県に行く。しかし、転勤先では、「こっち（弘前）で住む給料で向こう（福島）で貰ってたからすっごい少なくて、維持できなくて。こっち（弘前）にいるほう稼げるような感じで。周りの働いてる人もぱっとしなくて、このままだったら自分がだめになると思って」仕事を辞め、弘前市に帰ってくる。弘前

市に帰ってくると、地元の友人たちとストリートダンスイベントに通うようになり、ダンスをしていた友人の影響でストリートダンスを始める。この頃は、仕事とダンスを両立し、「そんな時は、すげー今思えば充実してたんじゃないかな」と話している。そうして、波に乗り出した矢先、勤め先の青森支店との合併の話が持ち上がる。「そんな時ダンスが結構大きくて、弘前でダンスできなくなるって思って、やっぱり辞めると言って」仕事を辞めている。弘前市でダンスをしたい理由を聞くと「(ダンスの)仲間じゃねーやっばり、地元大好きっ子なんで」と話す。

仕事を辞めた後、失業保険を貰い、職業訓練学校に通う。その後、ワーキングホリデーを使って、カナダに留学をする。カナダでは、仕事をしながら学校へ通い、カナダの友人たちとストリートダンスもしていた。そうして、一年半のカナダ留学を終え、日本に帰国、弘前に戻ってきた。その後は、「仕事という仕事はしていない」「短期でバイトしたり」しながら、ストリートダンス活動を続けていた。そんな生活を続けていたころ、ダンス仲間が設立したのが弘前にあるストリートダンススタジオであった。スタジオをたちあげた、ダンス仲間のKさんにインストラクターを頼まれ、ダンスを教える仕事をするようになった。インストラクターとなって半年が経つが、「結婚もできないしさ。楽しいけどみたいな。収入もないし」とダンスを仕事とすることに不安を感じ始め、ほかの職業との両立を考えている。

以上のことより、Bさんは職業的達成よりも弘前でダンスをすることを重視し、ダンス仲間との関係を大切にしていることがわかる。

教育社会学者の新谷周平（2002）は、フリーターのストリートダンサーたちが、「自分の居場所となり得なかった学校や、職場を抜け出し、ストリートダンスへ自分の居場所を見つけていった」と述べている。これは、「ダンスが仕事型」の対象者にも同様のことが言える。さらに、新谷は、ストリートダンサーたちが地元の仲間たちと「時間・場所・金銭を共有」することで「非移動指向の文化（地元つながり文化）」をつくりあげていると述べたが、弘前市のストリートダンサーに類似したことがいえる（本稿では対象者たちがストリートで「時間・場所を共有」していることを述べている）。一つだけ異なることは、対象者たちは、地元の仲間達というよりもダンスの仲間達とのつながりを大事にしているということであった。彼らは、「ダンスつながり文化」を形成し、「非移動指向の文化」をつくりあげている。

さらに、弘前でダンスすることを重視することで、離職し、フリーターになっていったBさんは、ダンスインストラクターの仕事をするも、将来に不安を感じ、別の仕事を探しているという。「ダンスが仕事型」の対象者たちは、ダンスをすることで不安定な生活に水路付けられているという側面もある。

#### 4. ストリートダンスを重視する人生

ストリートダンス文化は、「職業的達成よりもダンスを重視する」ライフスタイルを提供する。そのことが、一方では、趣味以上のものとしてダンスにエネルギーを費やす人生を水路付けるが、他方では、ストリートに「居場所感」を見出すことで、結果として、生活

が安定しない人生を水路付けている場合もある。ストリートダンス文化は相対的に、生活手段の重要性を低減させることとなるのである。この文化は不安定なライフスタイルを産出する機能をもつといわざるを得ない。ただし、やりたいことのみつからない若者や目標喪失の若者が取りざたされるなか、充実した生活を彼らが送っていることも否めない事実としてある。

#### 【参考文献】

- ・ 新谷周平著 2002「ストリートダンスからフリーターへ」『教育社会学研究 第71集』東洋館出版社
- ・ 石原宏哉・権旻娥・昆野町子・佐藤清子・中路武士・三浦伸也著「I ストリート・アーティスト」吉見俊哉・北田暁大編 2007『路上のエスノグラフィ：チンドン屋からグラフィティまで』せりか書房
- ・ 玄田有史 2001『仕事のなかの曖昧な不安』中央公論新社
- ・ 小杉礼子 2003『フリーターという生き方』勁草書房
- ・ 太郎丸博・亀山俊明著 2006「第1章 問題と議論の枠組み」太郎丸博編 2006『フリーターとニートの社会学』世界思想社
- ・ 難波功士 2007『族の系譜学 ユース・サブカルチャーズの戦後史』青弓社
- ・ 西谷聖子 2004『卒業論文 薬物に対するイメージの社会学的研究—パーティに通う若者を対象に一』
- ・ Paul Willis 1977=熊沢誠・山田潤訳 1985『ハマータウンの野郎ども』
- ・ 弘前市役所ホームページ <http://www.city.hirosaki.aomori.jp/>